



発掘された！

西尾市資料館企画展

中世西尾の 城館跡

令和5年

7.1回→10.1回

西尾市教育委員会

西尾の中世城館 MAP

中世城館とは？

鎌倉時代から戦国時代に築かれた有力者の館や城のことを指します。

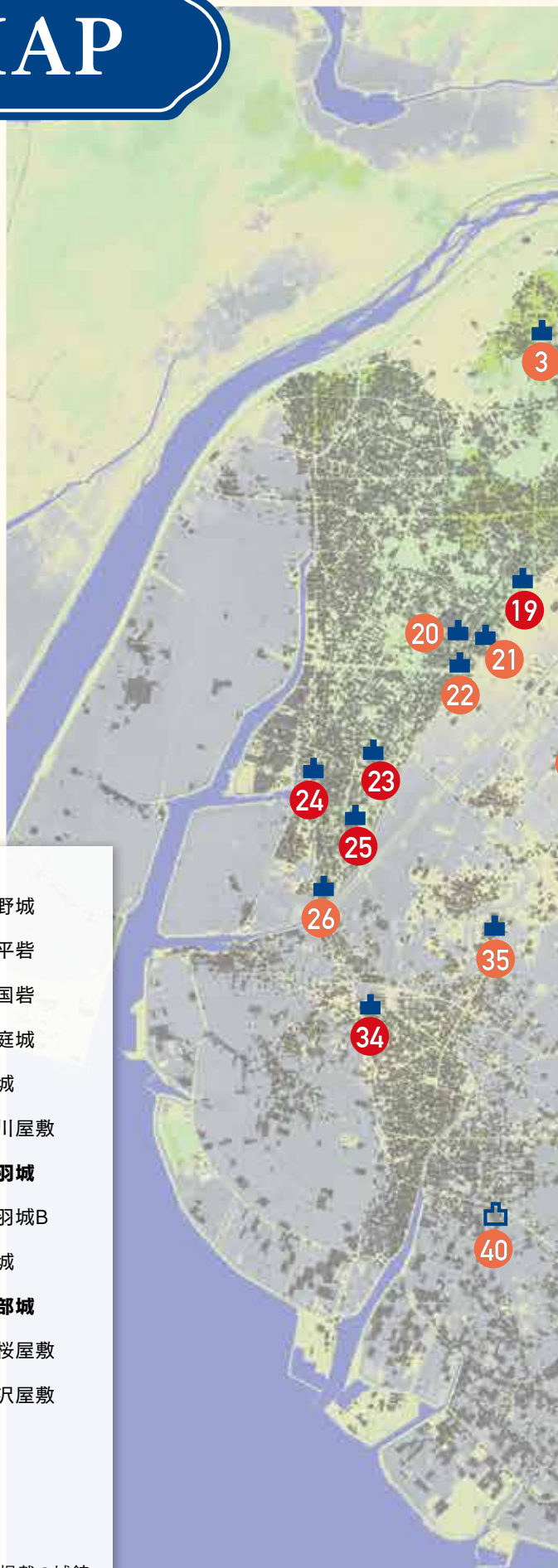
市内には西尾城以外にも吉良家の家臣や在地領主によって約60か所の城館が築かれ、有力者の住居や各地の支配拠点としての役割を果たしていました。

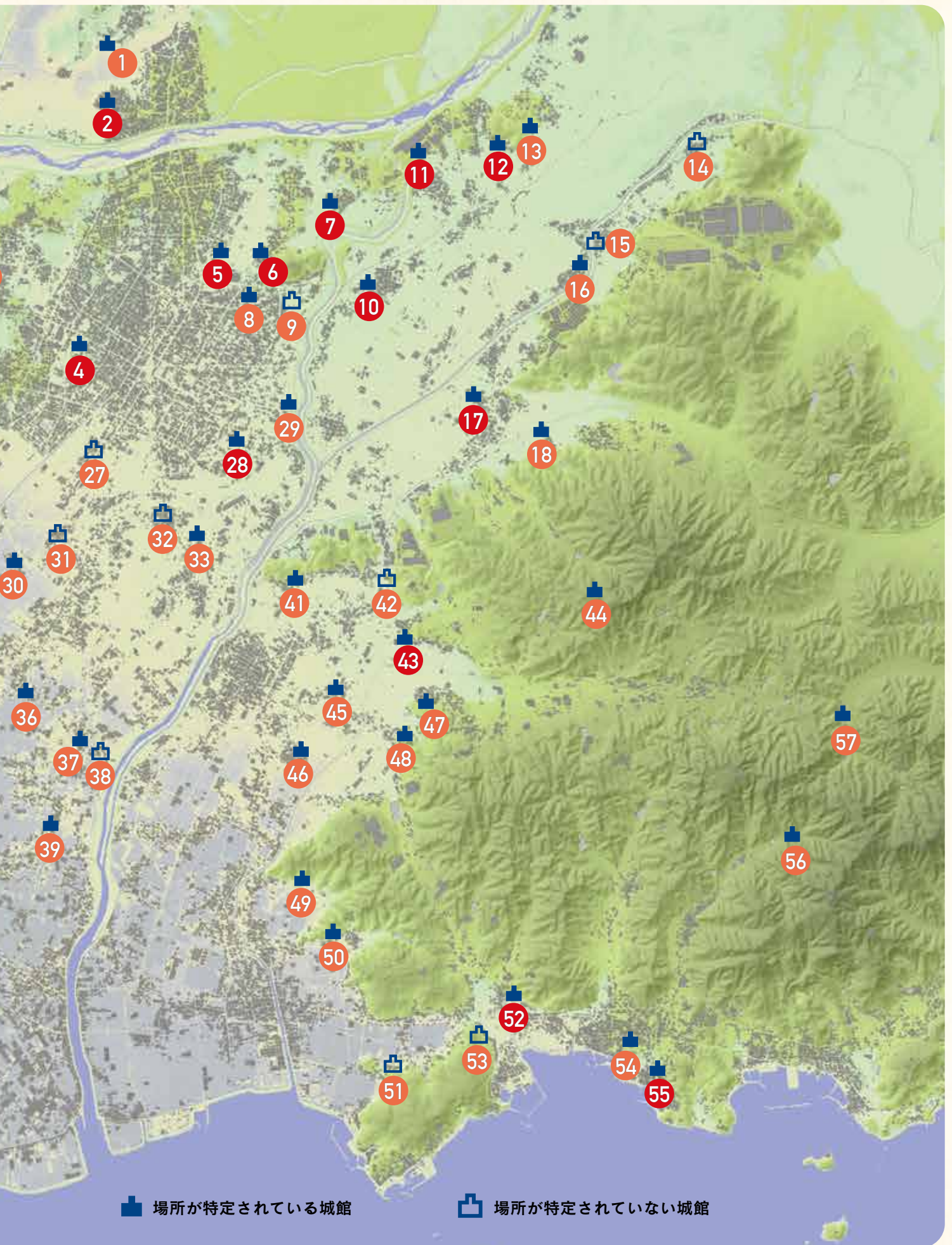
中世城館の多くは、土地の地形を利用し土塁や堀で守りを固めた土づくりの城です。そのほとんどが戦国時代の終わりとともに廃城となりました。現在では伝承のみで所在地が不明となってしまった城館もありますが、縄張り調査や発掘調査、文献資料や地籍図を手がかりにするなど様々な手法により実態解明が図られています。

西尾市内城館一覧

- | | | | |
|------------|----------|----------|---------|
| ① 南中根城 | ①⑥ 永良屋敷 | ③① 菱池屋敷 | ④⑥ 中野城 |
| ② 米津城 | ①⑦ 室城 | ③② 細池屋敷 | ④⑦ 津平砦 |
| ③ 丸山御所 | ①⑧ 糟塚砦 | ③③ 鶉ヶ池屋敷 | ④⑧ 友国砦 |
| ④ 西尾城(西条城) | ①⑨ 国森城 | ③④ 赤羽城 | ④⑨ 饗庭城 |
| ⑤ 戸ヶ崎城 | ②⑩ 矢田郷前城 | ③⑤ 八ヶ尻城 | ⑤⑩ 波城 |
| ⑥ 荒川城 | ②⑪ 矢田郷後城 | ③⑥ 市子屋敷 | ⑤⑪ 乙川屋敷 |
| ⑦ 志籠谷砦 | ②⑫ 矢田熊子城 | ③⑦ 平口古屋敷 | ⑤⑫ 鳥羽城 |
| ⑧ 熊子砦 | ②⑬ 徳永城 | ③⑧ 笹曾根屋敷 | ⑤⑬ 鳥羽城B |
| ⑨ 味崎砦 | ②⑭ 寺津城 | ③⑨ 中田屋敷 | ⑤⑭ 欠城 |
| ⑩ 江原城 | ②⑮ 巨海城 | ④⑩ 対籠屋敷 | ⑤⑮ 寺部城 |
| ⑪ 小島城 | ②⑯ 刈宿屋敷 | ④⑪ 岡山砦 | ⑤⑯ 小桜屋敷 |
| ⑫ 浅井西城 | ②⑰ 矢曾根城 | ④⑫ 瀬戸屋敷 | ⑤⑰ 大沢屋敷 |
| ⑬ 浅井東城 | ②⑱ 今川城 | ④⑬ 東条城 | |
| ⑭ 羽角屋敷 | ②⑲ 寄近屋敷 | ④⑭ 茶臼山城 | |
| ⑮ 貝吹屋敷 | ③⑰ 長縄城 | ④⑮ 小牧砦 | |

※太字は本書掲載の城館





西尾地区の中世城館

志籠谷砦 / 志籠谷町 MAP⑦

南側に矢作古川を臨む標高9mの台地上に位置しています。荒川城の支城のひとつで、地域の有力者牧野氏が築いた砦と伝えられています。

平成20年の発掘調査で砦の一部と思われる戦国時代の堀跡が2本発見されており、遺構からは土師器鍋などが見つかっています。南側の堀は幅約2m、深さ20cm、北側の堀は幅3m、深さ1mの逆台形で、台地の縁辺を巡るように掘られています。



第1次調査区(平成20年) 堀跡全景(南から)



第1次調査区(平成22年) 堀跡全景(南から)

荒川城 / 八ッ面町市場 MAP⑥

戦国時代に荒川氏の居城として栄えた幡豆郡北部の拠点的な城です。小島城、志籠谷砦などを支城に持ちました。

八ッ面町内には「市場」や「土井」などの地名が残っています。居館は現在の八ッ面小学校周辺と推定されており、平成13年に校庭内で行われた確認調査では、南と東の2か所の調査区で堀跡と思われる幅4mの遺構が確認されました。それぞれの堀跡をつなげると約100m四方の比較的大きな居館であったと推定されています。

国森城(国森遺跡) / 国森町 MAP⑩

標高9mの碧海台地東端部に位置する遺跡です。平成22年の矢田ふれあいセンター建設に伴う発掘調査ではじめて確認され、戦国時代の堀跡が見つかっています。

堀跡は上端幅3m、下端幅0.8mの逆台形で深さは1.5mです。第3、第4トレンチの間で屈曲し、一辺の長さが40mを超える堀であることがわかりました。

堀跡内からの遺物は少なく、掘り直した痕跡もないことから、臨時の砦として利用されたものと考えられます。文献資料に記録がない城館が明らかとなった貴重な例です。



確認調査(平成13年) 堀跡写真

にし お 西尾城 / 錦城町〈市指定史跡〉 MAP ④

昭和59年の東之丸発掘調査以降、本丸・二之丸・東之丸などで14次にわたる発掘調査が行われています。

承久年間(1219～1222年)に三河守護の足利義氏によって築城されたとの伝承がありますが、現在の位置に城が築かれたのは戦国時代と考えられています。15世紀後半以降の遺構が多く発見されており、二之丸地区と東之丸地区で堀・溝・柵列などが分かっています。戦国時代末には二之丸地点で丸馬出や障子堀などが構築され、より強固な城へと発展しました。これらの遺構は『家忠日記』に記された天正13(1585)年の西尾城大改修の際に築かれたものと推定されます。

* 丸馬出…敵の攻撃から虎口を守るために門の外に設ける半円状の小さな曲輪のこと。

* 障子堀…堀底を障子の棧のように掘り残し、障壁を設けた堀のこと。



戦国時代の土師器鍋類

ここから
出土しました



土師器皿出土状況

ここから
出土しました



丸馬出全景(二之丸地区)

こ み 巨海城 / 巨海町 MAP ⑤

寺津小学校の南に位置する吉良氏家臣の巨海氏が本拠としたと伝わります。『三河国二葉松』や『寺津村誌』などの記録や地籍図の検討、発掘調査の成果などから城館の位置の特定が図られています。

これまでの発掘調査で中世の溝状遺構や井戸が発見され、土師器皿や山茶碗、中世陶器などが出土しました。令和5年3月に行った発掘調査では中国産の青磁や白磁、市内での出土例が少ない瓦器が見つかったことから、有力者の居館があったことを伺い知ることができます。



中国龍泉窯系青磁



第2次調査区北側(令和2年) 区画溝と井戸



第3次調査区(令和5年) 全景

え わら 江原城 / 江原町屋敷 MAP⑩

矢作古川左岸、沖積低地の微高地に位置し、戦国時代に今川氏家臣の江原氏の居城であったとされています。近年まで城館の一部と推定される土塁が残存し、平成23年に調査が行われました。土塁は基底が最大11m、頂部が幅約2mの平坦面をもつ台形で、その規模は南北約40mに及びます。断ち割り調査では、土塁が人工的に盛られていることが明らかになりました。

市内に残る中世城館の多くは丘陵上に築かれており、江原城は沖積微高地上に築かれた貴重な一例です。

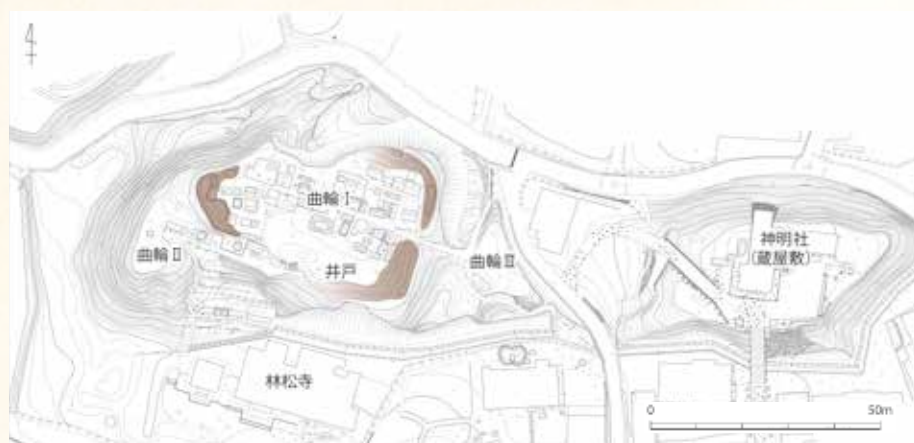


平成23年時土塁の状況

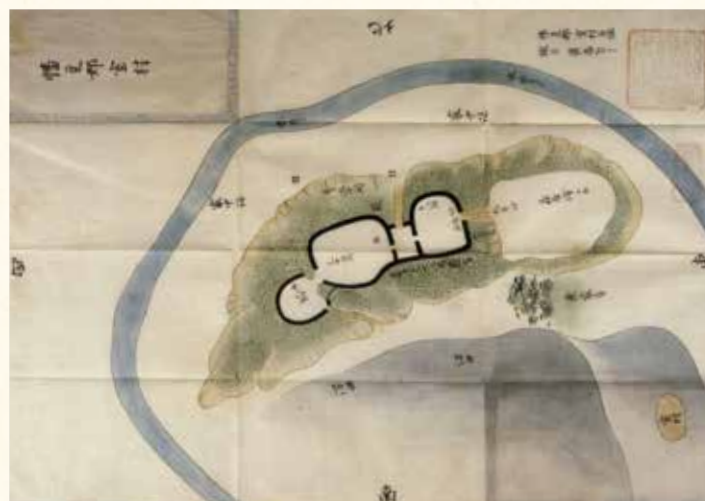
むろ 室城 / 室町上屋敷 MAP⑪

室町上屋敷の独立丘陵上に位置し、現存する曲輪^{くるわ}や土塁などの遺構は、「三河 室」(『諸国古城之図』)に描かれた地形と概ね合致しています。丘陵上に一列に曲輪を配置しており、本丸にあたる曲輪Ⅰの場所に居館が置かれていたと思われます。また、曲輪Ⅰは現在墓地になっており、絵図に描かれている井戸跡が残っています。

城主は東条吉良氏の重臣富永氏と伝えられ、城跡の南側には富永氏の祈願寺の林松寺が現存しています。絵図によると現在神明社が建っている大手口(城の入口)前に「蔵屋敷」と記載されており、城に関連する倉庫が置かれていた可能性があります。



室城跡測量図(平成2年測量)



「三河 室」(広島市立中央図書館所蔵/浅野文庫『諸国古城之図』)

『諸国古城之図』

広島市立中央図書館(浅野文庫)所蔵

広島藩主であった浅野家に伝来した城絵図集。東北地方から九州地方までの各地の古城を描いた絵図177点が残されています。

成立は江戸時代前期とされていますが、当時すでに廃城となっていた城が多く含まれます。三河国内の城は56か所が収録されており、そのうち西尾市域の城館は東条城・寺部城・小島城・室城の絵図があります。

中世城館の痕跡

市内には約60か所に及ぶ中世城館跡の存在が伝えられていますが、このうち遺構が明確で、発掘調査などの考古学的調査が行われた城館跡はごく一部です。時間の経過により所在がわからなくなり、開発に伴い失われた城館も存在します。そのため、古くからの伝承や地誌などの城館の記録は貴重な手掛かりとなります。

お しま 小島城 / 小島町城山 MAP⑪



「三河 小島」(広島市立中央図書館蔵/浅野文庫『諸国古城之図』)(絵図の上が北)

絵図をみると北側の曲輪(本丸)と南側の曲輪を連絡する土橋がかかっています。一方、測量図からは本丸の南端部に櫓が設けられていたことがわかります。これは南側の曲輪から土橋を渡って本丸へ侵入しようとする敵を櫓から攻撃する横矢掛りの仕組みがあったと推定され、軍事機能を高度に発達させた城館であることがわかります。

昭和49年に工場建設のため滅失してしまいましたが、絵図と工事前に作成された測量図から当時の様子を知ることができます。

測量図によると小島城は南北の曲輪で構成され、その規模は東西約70m、南北約150mに及びます。「三河 小島」(『諸国古城之図』)には、方位は不正確ですが、小島城周辺の地形や矢作川旧流域路の二ヶ崎川がほぼ正確に描かれています。空堀が主要部を囲み、東(絵図では北)は矢作古川を外堀としています。また、測量図には空堀や櫓台の痕跡がみられます。



小島城跡測量図(昭和46年測量)
『新編西尾市史 資料編1 考古』より

寺津城 / 寺津町御屋敷 MAP 24

寺津町御屋敷にある瑞松寺周辺に位置し、吉良氏の重臣大河内氏が城主であったと伝えられています。東西約50m、南北約60mのやや変形した方形居館であったとされ、現在も寺の境内北西側に土塁の一部が残っています。

寺津城を描いた絵図は現在3種類確認されています。そのうちのひとつ安政5(1858)年に描かれた「寺津村絵図」(左図)には「御蔵」の文字があり、蔵屋敷が設けられていたと思われます。

寺津町内には蔵屋敷、市場、馬場などの地名がみられ、北側には寺津八幡宮、南側には金剛院などの大河内氏ゆかりの寺院が並んでいます。戦国時代に城下町を形成した地域の拠点的な城館であったと考えられます。

中世城館の手がかり1 地籍図

廃城から時間が経ち、所在があいまいになってしまった城館の位置を検討する手段として、地籍図が利用されます。明治17年に愛知県が県下の郡役所などに作成させたもので、県内ほぼ全域の地籍図を愛知県公文書館で見ることができます。近代の開発以前の土地のあり方から城館の痕跡を探ることができる有力な手法です。



「寺津村絵図」中央の樹木や竹林に囲まれた範囲と地籍図を重ねると地籍図の地割にほぼ一致し、寺津城の規模や構造を考える上で手がかりとなりました。

寺津村地籍図『新編西尾市史 資料編1 考古』より



「寺津村絵図」(西尾市教育委員会所蔵) [---] 城跡の範囲

浅井西城(浅井土豪屋敷)

/ 西浅井町宮下〈市指定史跡〉 MAP 12

徳川家康の祖父松平清康の弟である松平康孝の居城と伝えられています。

発掘調査は行われていませんが、平成26年に測量図が作成されています。高さ3m以上の土塁が南の一部を除き良好に残っており、土塁は敵の側面を横矢で攻撃できるように弓なりに湾曲しています。また現在は祠が建つ北西隅には櫓台の痕跡が残っています。虎口の遺構は後世の改変により明瞭ではありませんが、南北に設けられ、北は枳形虎口になっていたと考えられます。虎口の構造から、現在の遺構は戦国時代末期に構築されたと推定されます。

浅井西城は中世の城館遺構がほぼ完存している貴重な例で、市指定史跡となっています。

* 枳形虎口…門の前に方形の空間を設けた虎口で、戦国時代末期から作られるようになったとされる門に入るには直角に曲がる必要があるため、横からの攻撃が可能になる。



浅井西城跡測量図(平成26年測量)

『新編西尾市史 資料編1 考古』より

吉良地区の中世城館

とう じょう 東条城 / 吉良町 駿馬 まだらめ MAP 43

茶臼山からのびる丘陵上に築かれた平山城です。承久の乱(1221年)後、三河国の守護、吉良荘の地頭に任じられた足利義氏により、西条城(現在の西尾城)とともに築かれたとも伝えられています。近年の研究では戦国時代となってから本格的に整備されたと考えられています。室町時代に吉良氏から分立した、東条吉良氏の居城です。

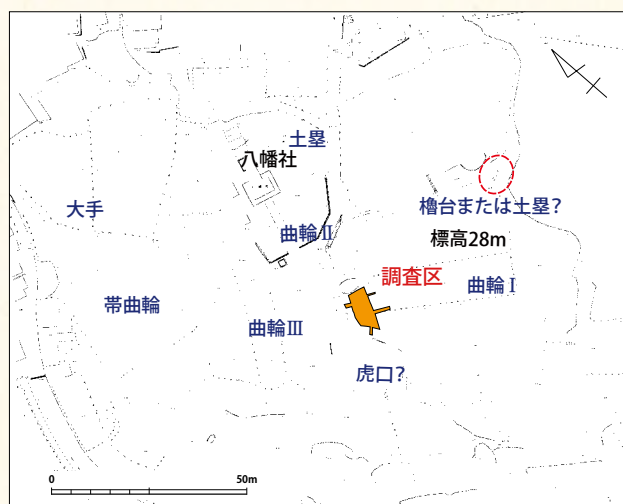
本丸とされる約50m四方の曲輪Ⅰ(測量図参照)を中心に複数の曲輪が階段状に取り巻く作りとなっています。平成5年には公園整備に先立ち、曲輪Ⅰ西側で発掘調査が行われました。溝や土坑などが検出され、戦国時代の遺物が多数出土しています。16世紀の土師器鍋類が見られることから、少なくとも戦国時代には曲輪Ⅰが居館として機能していたとみられます。



城跡遠景(南西上空から)
写真上部に見える丘陵が茶臼山



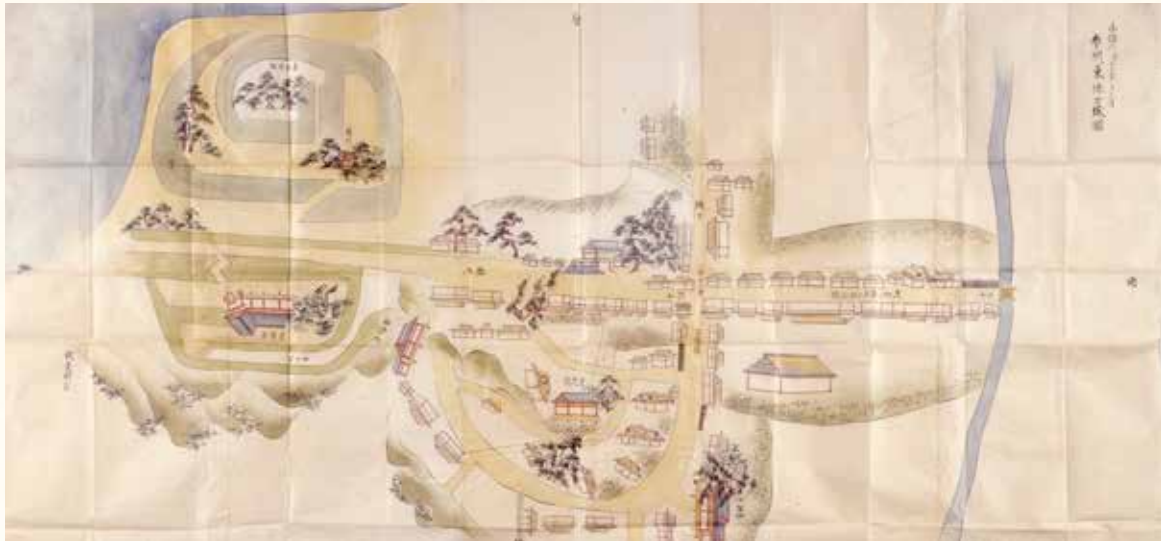
平成5年調査 調査区全景



東条城跡測量図(平成元年測量) 『新編西尾市史 資料編1 考古』より



「三河 東条」(広島市立中央図書館所蔵/浅野文庫『諸国古城之図』)



「三州東條古城図」(光西寺所蔵/画像提供:川越市立博物館)

東条吉良氏の本拠地となっていた東条城は、永禄4(1561)年に徳川家康に攻められ落城します。その後青野松平氏が入城し、東条松平氏と呼ばれるようになりました。当主の松平亀千代(家忠)は幼少であったため、松井忠次が後見として城代となりました。

本図は、松井忠次が城代であった永禄6(1563)年の城下の様子を詳細に描いています。寺院や市場、家臣の屋敷が描かれており、道路の位置は現在もほとんど変わりません。東条松平氏の時代には小規模ながら城下町を形成していたことがわかります。

中世の墓所

善光寺沢遺跡 / 吉良町岡山

中世になると生活域と離れた場所に集団墓地が形成される場合があります。県内でも大規模な中世墓として知られる善光寺沢遺跡もそのひとつで、13世紀～15世紀末ごろまで造営されました。

平成4年に行われた発掘調査では火葬墓58基と土葬墓22基が検出されています。火葬墓ではそのうち45基は、常滑焼や瀬戸焼の壺・甕を蔵骨器として埋設し礫で方形に覆った、集石墓と呼ばれる墓でした。当時火葬を行ったのは、武士や僧侶などに限られており、吉良氏に関係する人々の墓域と考えられています。



平成4年調査 検出状況



蔵骨器出土状況



蔵骨器

一色地区の中世城館

あか ばね 赤羽城 / 一色町赤羽〈市指定史跡〉MAP 34

赤羽別院親宣寺の境内地に位置しており、吉良氏家臣の高橋氏が城主と伝わります。平成6年に赤羽別院会館建設に先立ち発掘調査が行われ、中世の溝から遺物が出土しました。

城館の具体的な姿はわかっていませんが、かつては西側に海が広がる台地の端に位置し、城の立地として良好の場所であったと考えられます。



平成6年調査の様子

幡豆地区の中世城館



発掘調査区全景(平成6年)愛知県埋蔵文化財センター提供

てら べ 寺部城 / 寺部町〈市指定史跡〉MAP 55

三河湾の海岸に近い標高30mの小丘陵に築かれた山城で、本丸にあたる曲輪からは三河湾を一望することができます。市内に残る中世城館の中でも特に保存状態がよく、市指定史跡となっています。幡豆地区の三河湾沿岸部を治めた幡豆小笠原氏の居城でした。

主郭とされる曲輪Ⅰ(13頁測量図参照)は25m四方ほどの広さで、東側から北側にかけて土塁が残っています。また曲輪Ⅰと東側の曲輪の間には北側から東側に回り込むように、幅約15m、深さ約9mの横堀が設けられています。曲輪Ⅰの北西側にも幅7~8m、長さ10m以上の縦堀が築かれており、大規模な普請が行われたことがわかります。

と ば 鳥羽城 / 鳥羽町 MAP 52

幡豆山地の麓に位置し、三ヶ根山から西に延びた低丘陵の先端部に築かれています。平成6年に県道西尾幡豆線の建設に伴う発掘調査として3,180㎡が調査されました。現在は道路建設により消滅しています。

本丸にあたる曲輪の南には基底幅8m、高さ1.5mの土塁による喰違い虎口が確認されています。西側は切岸に続く連続した腰曲輪が形成され、防御性の高い構造になっています。南側虎口の形態から16世紀後半に構築されたものと考えられます。

城館に伴う遺物はほとんど出土していないことから、居館や本格的な詰城ではなく、戦のための臨時の砦であったと推定されます。



城跡遠景(東上空から)



「三河 寺部」(広島市立中央図書館所蔵/浅野文庫『諸国古城之図』)



寺部城跡測量図(平成27年測量)『新編西尾市史 資料編1 考古』より

絵図を見ると城館の北側は谷地形と堀で守りを固めていますが、南側は土塁が作られず開放され、屋敷地が広がっていたようです。

海と集落との間には吉良から蒲郡に通じる道が東西に伸び、ここが水陸交通の要所であったことを表しています。

寺部堂前遺跡 / 寺部町

寺部城の南側、「三河 寺部」(『諸国古城之図』)の「ヤシキ」と記された位置にあたります。

古代瓦が散布していることから奈良時代の寺院跡として知られており、平成14年の確認調査では多量の古代瓦が出土しました。また、古代瓦と中世陶器を含む地層を掘り込んだ溝や土坑が確認されています。いずれも規模が大きいことから、寺部城に関わる遺構である可能性が高いと考えられます。



現地説明会の様子

中世のムラ

多くの中世城館が築かれた時代の人々の生活はどのようなものだったのでしょうか。発掘調査では遺構や出土遺物からその一端を知ることができます。

中世の集落は溝で区画された複数の屋敷地^{やしきち}で構成されていました。屋敷地内には掘立柱建物や倉庫、井戸、埋葬土坑などが設けられます。生活用品としては山茶碗、土師器の皿や鍋、常滑や瀬戸産の陶器などが利用されました。また、15世紀中ごろには火葬施設が出現し、埋葬方法の変化も見られます。

室遺跡 / 室町・駒場町

広田川と須美川に挟まれた沖積低地に立地する古代～中世の遺跡です。平成3～4年の国道23号線岡崎バイパス建設工事に先立つ発掘調査をはじめ、これまでに9,200㎡が調査されています。12～15世紀にわたる屋敷跡が複数確認されており、中世の屋敷地の変遷を辿ることができます。

遺跡南側には富永氏を城主とする室城が所在していますが、室遺跡の集落との関わりは明らかになっていません。



室遺跡・室城遠景(南から)



調査区遠景(西から)

愛知県埋蔵文化財センター提供

八ッ面山北部遺跡 / 中原町・八ッ面町

八ッ面山北側の碧海台地上に立地する中世の集落遺跡です。ほ場整備事業に先行して、平成2～4年にかけて合計11,000㎡が発掘調査され、飛鳥時代～中世まで長期にわたる集落が確認されました。15世紀になると集落は廃絶し、墓域へと変化します。15～16世紀の遺構としては火葬施設や炭化物が混入する埋葬土坑が発見されており、土葬から火葬へと移り変わる埋葬方法の変遷を知る上で重要な遺跡となっています。



戦国時代の火葬施設

長さ約1.5m、幅約0.6mほどの長方形又は楕円形の遺構で、長軸の方向に通風孔が設けられています。



第2次調査区(平成24年)

❖^{どう こう じ}道光寺遺跡 / 道光寺町

名鉄西尾駅から北東に1.5kmの碧海台地縁辺部に位置しています。

広範囲に遺構が多数重複して発見されており、弥生時代や飛鳥時代の竪穴建物からなる集落とともに、中世の掘立柱建物や井戸、区画溝などが確認されています。第2次調査(平成24年)では中世の井戸から戦国時代の遺物が多数出土しました。



井戸から出土した鍋

❖^{くま ごと}熊子1・2号遺跡 / 上矢田町

碧海台地東縁に所在する集落遺跡です。遺跡の西側には、吉良氏家臣の竹田勘八郎の居城とされる矢田熊子城が所在したとの伝承があります。昭和51年、県道蒲郡碧南線の工事に先立ち約350㎡が調査されました。発掘調査では、アサリ・ハマグリを主体とする貝層が見つかります。戦国時代の井戸からは鍋などの日用品、アサリ・ハマグリなどの貝類や魚の骨などの自然遺物も出土しており、戦国時代の人々の生活を考える上で貴重な資料となっています。



発掘調査の様子(昭和51年)



出土した陶器類



編集・発行：西尾市教育委員会文化財課

発 行 日：令和5年7月1日